

山積する下水道問題を解決する

次世代を
意識し
進化させた製品・工法

積水化学工業

積水化学工業（東京都港区虎ノ門二―三―一七・虎ノ門2丁目タワー）、製品を提供。中でも1980―3―15五二―10七四―1は、東京ビッグサイトで八月一日〜四日まで開催された「下水道展」で、「応える技術・多岐にわたる課題・下水道への熱い期待」をテーマに、次世代の下水道関連事業の取り組みを紹介、注目を集めた。



で現場到着時には即時に更生材を管きよに引き込んで更生することができると。この結果、呼び径が200mm〜300mmの施工の場合、従来の8時間を約5時間に短縮可能。大幅な施工時間の短縮を実現する。都市部における浸水対策として非常に有効な技術として注目を集めたのが「高落差処理システムドロップシャフト」である。集中豪雨による浸水被害を減らすには増加した雨水を一時的に雨水貯留槽に貯めて晴天時に河川に放流するのが有効であるが、貯留槽は地下数十メートルに建設されることが多く、落差処理が課題であった。また、同展示会の商談コーナーでは、包括委託を受託している自治体の特産品を提供。下水道を通じた地方活性化の支援も行っていた。

1947年に創立以来プラスチックの成形・加工メーカーとして日本の家庭にプラスチックという素材を強力に紹介してきた同社では、多岐にわたるプラスチック素材製品を提供、今年で創立70年の節目を迎える。

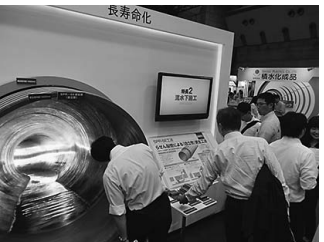
は新たに「時短オメガライナー工法」を紹介した。繁華街など道路占有時間が長く取れない環境や下水流量が多くて施工できる時間が短くなる環境に最適な同工法は、更生材料に常温では固く、高温になると円型に復元するという形状記憶性能を備える硬質塩化ビニルを素材に用いたものを利用して更生する小口径管きよ・取付管更生工法である。

また、施工する際、ドロップシャフトを地中から地上に向けて施工する技術を開発したことも大きな特徴。道路専有範囲を小さくし、近隣住民や交通への影響を最小限に抑える。

「応える技術」で山積する下水道問題に対応。次世代を意識し進化させた数々の製品・工法を用いて問題を解決する。同社では、非開削で水を流しながら施工できる唯一の自立管更生工法である「S.P.R.I.S.E.工法」に加え、同展示会で

また、同展示会の商談コーナーでは、包括委託を受託している自治体の特産品を提供。下水道を通じた地方活性化の支援も行っていた。

このように次世代の下水道インフラを維持する製品・工法を紹介した同社の展示は、出展者表彰最優秀賞を受賞した。



S.P.R.I.S.E.工法①と時短オメガライナー工法②

また、施工する際、ドロップシャフトを地中から地上に向けて施工する技術を開発したことも大きな特徴。道路専有範囲

また、施工する際、ドロップシャフトを地中から地上に向けて施工する技術を開発したことも大きな特徴。道路専有範囲

また、施工する際、ドロップシャフトを地中から地上に向けて施工する技術を開発したことも大きな特徴。道路専有範囲

<http://www.eslon-times.com/>